

# 山陰教区門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 竹下正俊  
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



## 一年（二〇一二年度） を振りかえつて

山陰教区門徒総代会  
副会長 坂根 勲

大雪に始まり、三月の東日本大震災、夏の猛暑、ゲリラ豪雨と自然の恐怖を感じた年でした。被災されました皆様に心より御見舞い申し上げます。

さて、浄土真宗本願寺派でも、生涯に一度会えるか、どうかわからない、五十年に一度の宗祖親鸞聖人の大遠忌法要が春から冬へと行われました。私共、江津組でも五月、二百人（バス五台）で団参致しました。御影堂に満堂の全国からお参りのお同行（三〇〇〇人推定）の前にご門主、新門さまのご出座の後おごそかに法要がつとまりました。

毎年一度は自坊の住職とお参りはしていますがこれほどの感動を覚えたのは始めてです。淨土真宗の門信徒として生かされている喜こびに感謝しています。

次に、組画と言う大きな改革も有りました。私共の江津組では市の行政区域内の六組が一つになります。四十二ヶ寺で大きな組となります。これから運営も大変だとは思いますが私は何だかスッキリした思いです。

多くの総代会の仲間に恵まれ、活発に活動し発展させたいと思います。

合掌

## 総代について

飯石北組総代会長 高橋 駿

私は、少數の門徒数のお寺の総代をしています。十数年前に、規約改定でそれまで世襲制で決っていた総代も地区割制と決定され、改正直後は、多数は、以前の総代でした。四年の任期をへて次の改選時に、地区によつては、年令順、又は、定順と、推薦による総代でした。輪番制度で選出された総代は、四年の任期をやれば、次の人に交替、お寺の現状、

## 「限界集落」に憂い

三瓶組 小谷正美

「限界集落」の言語に悲傷を感じる瀬無く胸が痛む思いがいたします。

中山間地域の集落の末期症状の形容詞のごとく報じられる今日、

島根県は、限界的集落の維持に財政支援の制度を創設し、また市町村は県と協調し、高齢化や人口減少の著しい地域に対しソフト事業再生、浄土真宗の大教団組織で、基幹運動の大きな活動として取り組むべきと思います。

合掌

の支援の奏功に期待する。

県内に三三四四ある集落のうち、四五三集落が「限界的集落」の対象のこと。そこに住める人々の無念さ、その苛立ちは計り知れない。私たちはこの様をただ座して傍観するのみでよからうか。

## お陰様で、御縁を頂いて

市山組正蓮寺総代 山本國一

十九世住職の熱意により、昭和五十年一月正蓮寺門信徒会が結成

事なので、第一義的には阿弥陀さまに救われたという浄土真宗を、周りに伝えていく事だらうと思いますが、必ずしもそことどまらないで、社会的な活動でも何でも、自分の利益のためでなく、自分がいいと思つた事をする。』とこのようにお話をされております。この

となりました。それ以来、現住職二十世の基で運営に携わつております。早いもので、昨年は前住職の三十三回忌を営み終えることが

組の状況等わかりかけた時に、次の人と交替と悪循環し支障が出る事もあります。過日教務所であつた総代会で問題提起し、私の記憶では、門徒会長は、世襲、その他の総代は推薦の人が多いとの事でした。輪番制で選出された総代は寺、組、の状況等多数の人の理解協力を得られますが、他方、組に出席した時は、

メンバーが時々変わる事態はどんなものでしようか、長所、短所有つて、総代とは、と問題提起して寄稿をしたいと思います。

合掌

「今ここに生きる仏教」という大谷門主さまと作家の上田紀行氏の対談集を読む機会がありました。その中で「身を粉にしても報ずべし」「報ずべし」について対談され

ている箇所があり私には身近な教えのように思われました。『御恩』というのは、阿弥陀さまに救われて仏になるという救いをいたしている事です。それに対して「報じる」といつても、阿弥陀さまにまつすぐお返しする事は出来ない事なので、第一義的には阿弥陀さまに救われたという浄土真宗を、

周囲に伝えていく事だらうと思いますが、必ずしもそことどまらないで、社会的な活動でも何でも、自分の利益のためでなく、自分がいいと思つた事をする。』とこのようにお話を聴きこの事をわが身に置き

換えてみると、お寺のお世話、身近な人々、地域のお世話、自分がいいと思つた事をする、コツコツ続ける事で、阿弥陀さまの「御恩」に「報じる」事に繋がるのかなうと思此の事は私にも出来そう大切な事のように思えます。

私は六十代前半で仕事を辞め、その後お寺の法要に出かけ法話を

聴聞する様につとめておりますが、やさしい言葉で法話をされるのですが、なかなか私の奥底にとどまりず、右から左へと抜けていく感じです。先日の浜田での総代研修会で長老の先輩が、聴聞は何度も何度も回数を重ねる事によって法話を深く味わう事が出来るので聴聞を続ける事が大事な事なんです」と話されていました。阿弥陀さまへの「御恩」に「報じる」自分の出来る事を社会にお返ししていく事と、聴聞する事を今後も大切にしていきたいと思っております。

その間、昭和五十五年の伝統報告法を始め、昨年の聖人七五〇回法要や念佛奉仕団など六回の御縁を頂き本願寺に参拝させて頂いたしました。

以後、努めて私のお寺へお参りいたします。

私は幼少の頃から父の隣に正座して、御仏壇に向かいお勤めをするのが好きでした。でも、父がひどい音痴でこれには悩まされました。父の言葉であります。

志があつて勤務していた美都町役場を四十二歳で退職した折、今まで生きてきたこの私に何が足りないだろうか、と思い質してみました。お寺へ顔を出していない。そのことにやつと気がついたのでありました。

「ナマンダーブ、ナマンダーブ、ナマンダーブ……」。

口癖のように、祖父も祖母も父も日常生活の中でお念佛を申しておりました。

## ナマンダーブと私

益田組総代会会长 山根哲朗

て頂きましたこと有り難く思っています。これも家族の協力のもと健康に恵まれましたことに感謝

ました。いろいろな仏縁に合わせて頂きましたこと有り難く思っています。

今年卒寿祝になりますが、いつも、ご門主の御言葉

「世の中安穏なれ」

の教えを頂き、これを御縁としてこれからも更に寺院と門徒が、寄り添い聞法聴聞のご縁を頂くことを願っています。

## 2011(平成23)年度 山陰教区門徒総代会 会計歳計予算

### 歳入の部

款項	費目	23年度予算額	22年度予算額	対比	説明
1	会費	858,000	822,000	36,000	款新設、1ヶ寺 2,000円×411ヶ寺分
1	当年度会費	822,000	0	822,000	項新設
2	前年度未収金	36,000	0	36,000	項新設
2	研修会参加費	345,000	345,000	0	
1	研修会参加費	345,000	0	345,000	項新設、1ヶ寺 1,500円×230名
3	助成金	260,000	260,000	0	
1	助成金	260,000	0	260,000	項新設、本山・教区助成金
4	雑収入	2,533	1,265	1,268	
1	雑収入	2,533	0	2,533	項新設
5	繰越金	354,467	451,735	△ 97,268	
1	前年度繰越金	354,467	0	354,467	項新設、前年度繰越金
	合計	1,820,000	1,880,000	△ 60,000	

### 歳出の部

款項	費目	23年度予算額	22年度予算額	対比	説明
1	事業費	710,000	700,000	10,000	
1	研修費	650,000	0	650,000	項新設、開催経費(3地区)
2	会報印刷費	60,000	0	60,000	項新設、「門徒総代会だより」印刷
2	会議費	280,000	0	280,000	款新設
1	理事会費	180,000	180,000	0	項新設、監査・理事会開催経費
2	常任理事会費	100,000	100,000	0	項新設、2回
3	教化助成費	520,000	520,000	0	款繰上
1	教化助成費	520,000	0	520,000	項新設、20,000円×26組
4	組織強化費	30,000	30,000	0	款繰上
1	組織強化費	30,000	0	30,000	項新設、本山負担金等
5	事務費	75,000	70,000	5,000	款繰上
1	通信・印刷費	70,000	0	70,000	項新設、郵券料
2	諸費	5,000	0	5,000	項新設、事務消耗品等
6	雑費	5,000	10,000	△ 5,000	款繰上
1	雑費	5,000	10,000	△ 5,000	項新設
7	連絡協議会費	80,000	80,000	0	款繰上
1	連絡協議会費	80,000	0	80,000	項新設、中四国連絡協議会派遣経費
8	予備費	120,000	180,000	△ 60,000	款繰上
1	予備費	120,000	0	120,000	項新設
	合計	1,820,000	1,880,000	△ 60,000	

## 鳥取・出雲・石見ブロック伯耆組 総代会活動について

伯耆組総代会長  
覺善寺 藤田重徳

伯耆組では、二十二年七月の定期総代会で会則の整備、予算の強化等承認戴き、二十三年二月には臨時総代会を開き、組内の香宝寺前住職上杉正之師を講師に、「総代のあり方」「浄土真宗本願寺派の現状と今後の方向」等について勉強致しました。

又七月二十四日には、会所境港市本巣寺で定期総代会を開き、決算予算の承認を戴きその後、菅原龍憲師を講師に「承元の法難」についてお話し戴きました。終了後会

場を移し、住職総代合同で三十三名の参加をえて懇親会を開き、総代間の情報交換等を行いました。更に大会終了後、会所は勝福寺の住職（前龍谷大学学長）若原道昭師を講師に迎え「浄土真宗と総代としての私」をテーマに更なる勉強深めるため、総代研修会を計画致しました。

伯耆組は山陰教区内では最小の組ですが、小さいながら良くまとまり、活発に活動しております。

また、教区におきましても、山陰地区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要年。五十年に一度の法要のご勝縁に遇われた方も多いかと思います。

○回大遠忌法要がお勤まりになりました。今年度はご本山にて親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がお勤まりになりました。

## 鳥取・出雲・石見ブロックで 総代研修会を開催

二〇一一(平成二十三)年度山陰教区門徒総代研修会が山陰教区三地区(鳥取・出雲・石見)で開催されました。

鳥取ブロックは十一月三十日、伯耆組勝福寺さまにて四十六名のご参加、出雲ブロックは、十二月六日、出雲市民会館にて九十四名のご参加、石見ブロックは十二月七日、浜田組光西寺さまを会場として七十六名のご参加。合計一二六名の皆さまのご参加をいただきました。

ご参加いただいた皆さまにお礼を申し上げます。

(石見地区の写真は表紙に掲載)



## 編集後記

場を移し、住職総代合同で三十三名の参加をえて懇親会を開き、総代間の情報交換等を行いました。組内の信頼を深める事ができました。

さらに、二十四年二月二十五日には勝福寺の住職（前龍谷大学学長）若原道昭師を講師に迎え「浄

土真宗と総代としての私」をテーマに更なる勉強深めるため、総代研修会を計画致しました。

伯耆組は山陰教区内では最小の組ですが、小さいながら良くまとまり、活発に活動しております。

また、教区におきましても、山陰地区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要年。五十年に一度の法要のご勝縁に遇われた方も多いかと思います。

○回大遠忌法要がお勤まりになりました。今年度はご本山にて親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がお勤まりになりました。

また、教区におきましても、山陰地区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要年。五十年に一度の法要のご勝縁に遇われた方も多いかと思います。

また、教区におきましても、山陰地区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要年。五十年に一度の法要のご勝縁に遇われた方も多いかと思います。

また、教区におきましても、山陰地区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要年。五十年に一度の法要のご勝縁に遇われた方も多いかと思います。

また、教区におきましても、山陰地区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要年。五十年に一度の法要のご勝縁に遇われた方も多いかと思います。